

せいけん
詩集

第五篇

作：近藤せいけん

「神々の仕事」

かみがみ しごと

雪は天才 芸術家
ゆき てんさい げいじゆつか

顕微鏡で観る世界
けんびきやう み せかい

その結晶のデザイン
けししょう

見事さ
みごと

雄大さ
ゆうだい

二つとない 結晶
ふた ふた けししょう

人の想像を超えた
ひと そうぞう こ

神々の仕事
かみがみ しごと

雪は天才 芸術家
ゆき てんさい げいじゆつか

顕微鏡で観る世界
けんびきやう み せかい

その結晶の生い立ち
けししょう お

緻密さ
ちみつ

美しさ
うつく

二つとない 結晶
ふた ふた けししょう

天の技 天の作品
てん わざ てん さくひん

神々の仕事
かみがみ しごと

「忘却」
ほうきやく

歳を経て 物忘れ増え
としへ ものわす ぶ

友人の名 物の名
ゆうじん な もの な

思い出せず 一人 苦笑
おも だ ひとり にがわらい

誰でも訪れる 人生の不思議
だれ おとす じんせい ふしぎ

記憶の力 衰え
きおく ちから おしとろ

「忘れていいんだよ
わす

忘れることも
わす

一つの幸福」
ひと こうふく

天の声が 聞こえる
てん こえ き

道を間違え ふと立ち止まる
みち まちが たど

どつちに 行こうかな
い

あたりを 見回す
みまわ

「どつちに 行っても
い

いいんだよ

まだ 日暮れには
ひぐ

十分 時があるよ」
じゅうぶん ととき

天の声が 聞こえる
てん こえ き



「時間」じかん

朝早く目を覚ますあさはやめをさます

デジタル時計に目をやるデジタル時計に目をやる

ちようど4時44分ちようど4時44分

ソロ目ソロ目

「オット今日は縁起がいいぞ」「オット今日は縁起がいいぞ」

またフトンの中モソモソまたフトンの中モソモソ

起きて朝食後 出社起きて朝食後 出社

会社に8時8分会社に8時8分

時間で人は動く時間で人は動く

人は時間に動かされる人は時間に動かされる

世の中まるで世の中まるで

時間が上で時間が上で

人は下人は下

一日動き回り 帰宅一日動き回り 帰宅

夕食後 テレビを見て夕食後 テレビを見て

「あ、あく眠い」「あ、あく眠い」

「オット 十時寝る時間」「オット 十時寝る時間」



「光」
ひかり

ひで 日の出 だんだんと
ひかり うんかい こ
光さし 雲海を越えて
も つよ まま
燃える 強さ眩しさ
きょう よ はじ
今日を呼ぶ 始まり
いちにち いちねん
一日 この一年
よ おお
良きこと 多く
さち おお
幸 多く
ひびと て
人々を 照らせ

ひ ひかり さんざん
日の光 燦燦と
だいち うみ
大地に 海に
あたた やさ
暖かな 優しさ
きょう つく あした つな
今日を創り 明日に繋がる
いちにち いちねん
一日 この一年
よ おお
良きこと 多く
さち おお
幸 多く
ひびと て
人々を 照らせ

